

【総 説】

反復性中耳炎に対する肺炎球菌
結合型ワクチンの予防効果

いずみ 泉 のぶ お 夫

キーワード：肺炎球菌結合型ワクチン (PCV)，急性中耳炎，反復性中耳炎，
鼓膜換気チューブ，菌 (株) 交替 (replacement)

要 旨

急性中耳炎 (AOM) には3歳までに80%以上が1度は罹患し、発症が年少ほど後に反復しやすく、10～20%が反復性 AOM になる。最多の原因菌は肺炎球菌 (Sp) である。乳児期早期の PCV 7 接種開始による全 AOM の減少は6～8%と小さいが、反復性になる率の低下は大きく、米国の AOM 関連総コストの削減効果は Sp による侵襲性疾患のそれを上回る。ブースター接種後に効果は大きくなり、反復性と診断後の接種開始では効果はない。ワクチン株 AOM に対する効果も侵襲性疾患に劣るが、広範接種後、漸次この株の保菌は排除される。しかし、非ワクチン株や他種菌の増加が有り得、AOM 原因菌や鼻咽頭保菌の監視が必要である。Sp のほぼ全血清型に有効な表面蛋白に対するワクチンや、無莢膜インフルエンザ菌に対するワクチンが研究されている。

はじめに

急性中耳炎 (AOM) は、多くは感冒の経過中に起こり、年少児に多く、3歳までに83%が少なくとも1回、46%が3回以上罹患するともされる¹⁾。罹患のピークは6～20ヶ月²⁾、乳児期後半¹⁾あるいは10ヶ月³⁾にあり、初罹患が年少ほど、後々 AOM を反復しやすくなる^{1,2)}。

AOM の中耳液 (MEF) から65～75%で細菌

が検出され、普通、肺炎球菌 (Sp) が最多で40%、無莢膜インフルエンザ菌 (NTHi) が25～30%、*Moraxella catarrhalis* (Mc) が10～15%、その他は5%未満に検出される²⁾。近年、日本でも7価肺炎球菌結合型ワクチン (PCV 7) が普及してきた。PCV 7 の目的は侵襲性疾患の予防であるが、AOM や反復性中耳炎 (RAOM) にどのような効果が期待できるか是非知りたい。

AOM 発症における気道ウイルスの役割も検出方法の進展と共に重要性を増し^{4,5)}、なお、議論があるが⁶⁾、軽症初期には抗生剤を投与せず、注意深い経過観察が推奨される^{7,8)}。基礎に耳管機能不

Nobuo IZUMI

出雲市立総合医療センター小児科

連絡先：〒691-0003 出雲市灘分町613